

平成30年度 身近な教育委員会 実施報告

教育委員会室から外に出て、学校等で開催する「身近な教育委員会」を下記のとおり実施いたしました。

記

日時：平成30年5月22日（火）18時30分～20時30分

場所：教育支援センター研修室

概要：第1部 教育委員会（臨時会）

（1）平成30年度教育予算の概要について

（2）教職員の働き方改革について

第2部 パネルディスカッション

グループ討議・発表

「教職員の働き方改革プランの策定について思うこと」

※パネルディスカッション及びグループ発表の要旨は、
次ページ以降のとおりです。

参加者：105名

（内訳）保護者等 80名

教育長・教育委員 5名

中川修一教育長 高野佐紀子教育長職務代理者

青木義男委員 松澤智昭委員 上野広治委員

小・中学校長代表 2名

田中薫子志村坂下小学校長 荒井秀樹赤塚第二中学校長

小・中学校副校長 2名

吉川雅裕高島第三小学校副校長 新谷太郎赤塚第一中学校副校長

小・中学校主幹教諭 2名

松川清常盤台小学校主幹教諭 鈴木啓之志村第三中学校主幹教諭

教育委員会事務局関係者 14名

平成30年度 身近な教育委員会

パネルディスカッション・グループ発表要旨

◎ パネルディスカッションの概要

【登壇者】（進行：門野指導室長）

- <小学校> 高島第三小学校：吉川副校長
常盤台小学校：松川主幹教諭
- <中学校> 赤塚第一中学校：新谷副校長
志村第三中学校：鈴木主幹教諭

【1. はじめに】

（門野指導室長）

主幹教諭は、学校の中心となって活躍している先生で、ある意味、一番多忙な先生です。
副校長は、職員室のなかで先生方を一番管理されている、「職員室の先生」です。

今回は、本音の部分が聞けるようなディスカッションになれば良いなと思っています。

現在、学校弁護士（＝スクールロイヤー）が活躍するドラマが、テレビで放映されているところです。
皆さんもご覧になったことがありますでしょうか？

観ていて驚かされたことがありますして、中学校を舞台にしているのですが、一日のスケジュールが以下のように描かれております。

午前6時から部活動の指導、それが終わると授業が始まる。

午前中の授業が終わると、給食がない学校のため、先生は菓子パンを食べている。

食べ終わるとすぐに校内の巡回指導、その後、午後の授業が終わり、部活動の指導が終わる頃には、もう午後6時、7時になる。

その後に、先生は職員室に集まってくるのだが、何をするのかと尋ねると、これからが本業だと答える。

そこから、試験の採点、明日の授業の準備、職員会議などが始まる。

そうこうするうちに、午後8時、9時になると、生徒が万引きで捕まったので来てくださいと、電話が入り、緊急の職員会議が始まる。

日付が変わるころようやく先生方が帰っていくが、翌朝6時にはまた部活動の指導を行う。

スクールロイヤーが、この学校の働き方改革が進まない現状には、副校長に責任があると言います。

副校長は、午前6時に来る先生より前に来て、深夜12時に帰る先生より後に帰っているからだと…

さて、これはドラマの話ですが、板橋区の学校でもこのような状態なのでしょうか？

【2. 勤務の実態について】

（鈴木主幹教諭）

そうならないようにするのが、我々の役目だと考えています。

私も多忙でしたが、学校を落ち着かせるように、先生方が早めに帰れるように声掛けし、生活指導主任

の任に当たっています。

本校で、一番早く出勤するのは副校長で、午前7時には出勤しています。

一番遅く退勤するのは区内在住の若手教員ですが、午後9時、10時が11時、12時になり、終電になってしまうようなこともあります。

(松川主幹教諭)

小学校も同様で、一番早く出勤する副校長は、午前7時前には出勤しています。

出勤すると、予定表に子どもたちのメッセージを書いて、校内を巡回しています。

退勤については、ときに深夜12時を過ぎることもありますが、そうならないように、午後8時を過ぎたら声を掛け合うようにしていますが、もう少しだけ、もう少しだけと作業をしていると遅くなってしまふことが多いのが現状です。

一時間ごとに声を掛け合っているのですが、なかなか難しいところです。

(門野指導室長)

それほど早くから遅くまで、具体的にはどのような業務を行っているのでしょうか？

(松川主幹教諭)

私は、朝7時45分には出勤しています。

教室で芋虫を飼っているので、校庭にキャベツを取りに行くことからスタートし、教室の窓を開ける頃には子どもたちが登校してきて、それからはずっと対応に当たることになります。

午後4時45分から色々な仕事に取りかかり、退勤時間まで会議があり、その後、ノートのチェックを行います。

授業にもっと工夫を加えたいと思うと、もう少し、もう少しと思い、子どもの笑顔を見るのが楽しくなってきた、気付くと遅くなってしまふようなこともあります。

(鈴木主幹教諭)

最近、あまり遅くなるようなことは減りました。

ただ、通常の業務では遅くならないのですが、例えば、部活動で子どもがケガをすれば、その付き添いなどで午後8時を過ぎるようなことはもちろんあります。

その他にも、緊急の生活指導の対応などもあります。

また、保護者で夜の時間帯にしか会えないような方もいらっしゃいますので、その時間に合わせて会えるように調整するということもあります。

(門野指導室長)

午後8時まで勤務となると、都合、12～13時間労働ということになります。

副校長は、それよりも早く出勤し、遅く退勤しているのでしょうか？

(吉川副校長)

私は、出勤は午前7時、一番乗りで学校の鍵を開けたり、門を開けたりします。

退勤は、午後8時が基本になっておりますが、1時間くらいは前後します。

通勤に80分くらいかかっているため、必然的に家族とはすれ違いになってしまうことが多いです。

(新谷副校長)

私は、出勤は午前7時ですが、朝が得意な教員もおり、早いときには6時半には出勤している教員もいます。

朝早くに出勤して仕事を進めるのか、放課後に集中して仕事を進めるのかにより、教員によっては、午後10時前後まで在校していることもあります。

私は、退勤は午後7時が基本になっています。

【3. 副校長の業務について】

(門野指導室長)

副校長の業務はなかなかイメージしづらいと思いますが、具体的にはどのようなものでしょうか？

(吉川副校長)

連絡、調整がメインとなっています。

色々なところ、例えば、教育委員会、保護者、教員などから問い合わせがあり、色々な部署へそれを割り振るような調整を行っています。

また、若手教員の指導ということで、先生方の指導力を高める底上げも行っています。

ゆっくりと職員室にいるようなことは、ほとんどありません。

(門野指導室長)

小学校の副校長として、一番多い業務というのはどのようなものでしょうか？

(吉川副校長)

やはり相談業務が多いという印象です。

相談相手は、子ども、保護者、先生などで、本当に様々なお話がやってきます。

(門野指導室長)

それは、副校長の業務として、本来イメージしていた業務なのでしょうか？

また、副校長として、本当に一番やりたい業務というのはどのようなものでしょうか？

(吉川副校長)

イメージしていた業務とは確かに違いますが、相談に乗ることは、大切な業務だと思っています。

色々なお話を聞く中で、それが学校のためになっているようなことも多いと思っています。

(門野指導室長)

中学校の副校長として、一日の業務はどのようなものでしょうか？

(新谷副校長)

出勤して、校内の巡回、本日のスケジュールの確認、先生の出勤の確認、メールのチェックなどを行っています。

それから、様々な調査、出張者の確認、不登校生徒への指導の確認、これはスクールソーシャルワーカーや子ども家庭支援センター、福祉事務所などへの確認もあります。

また、教員の指導ですが、本校は若手教員が3分の1ほどいますので、指導や悩み相談をしたり、そのほかでは、工事業者等への対応や、校長との連絡調整なども行います。

(門野指導室長)

その中で、一番時間がかかるのはどの業務でしょうか？

(新谷副校長)

今は、不登校生徒への対応に一番時間をかけています。
担当や担任の空いている時間が違うため、空いている時間を見つけ、5分、10分という時間で話をし、トータルで一日1、2時間くらいにはなるかと思えます。

(門野指導室長)

副校長として、本当に一番やりたい業務というのはどのようなものでしょうか？

(新谷副校長)

子どもたちの学力向上、そのための教員の指導力向上です。
それを実現するために、授業を見たり、職員室でどのようなことをやっているのかを確認します。
ほとんどの教員が、教材研究、プリントやテストの作成、教材の作成などを行いますが、若手教員は経験が少ないので、苦労が見られることが多いです。
そのときに、少し悩ませるのか、積極的に介入するのを見極めて、教員が伸びるように指導していくように心がけています。
ヒントを与え、問いかけを行っていき、自分で考えさせることが大切であると考えています。

(門野指導室長)

松澤委員から先ほど質問がありましたが、板橋区立の小中学校の教員は、1,700名ほどおります。
毎年、新規採用教員が100名を超えている状態が、ここ4、5年継続しています。
単純計算で、400名から500名程度が新規採用教員という構成になりますが、大卒の教員だけではなく、中には50代の新規採用教員もいます。
中心としては20代ですが、若手教員が増えている中で、その指導に各校でも配慮しているところです。

【4、部活動の指導について】

(門野指導室長)

皆さんの関心がある問題の1つに、部活動の指導がありますが、実態はどのようなものでしょうか？

(鈴木主幹教諭)

本校では、教員がみんな生徒との仲が良く、熱意を持って指導してくれています。
土日もかなりの数が活動していますが、板橋区の活動指針に基づいて、土日のどちらか一日は休みをとるようにしています。

(門野指導室長)

朝練について、一番早いところでは何時くらいから、どれくらいの時間、活動しているのでしょうか？

(鈴木主幹教諭)

午前7時20分から、30分から40分程度活動し、午前8時前には終わり、始業時間に確実に間に合うように、文武両道を意識して活動しています。

(門野指導室長)

放課後の活動についてはいかがでしょうか？

(鈴木主幹教諭)

午後6時10分に活動終了の合図があり、6時30分には完全下校しています。

(新谷副校長)

本校は、朝練は、午前7時30分から8時までとしています。

また、放課後は、午後4時から6時30分までとし、完全下校を6時45分としています。

(門野指導室長)

部活動の指導は、教員だけが行っているのでしょうか？

(鈴木主幹教諭)

例えばテニスのコーチなど、部活動指導員も行っています。

(新谷副校長)

昼間は学習指導講師を務めている、大学を出て教員になりたい先生が、体育などでいるのですが、その先生が学生の頃にやっていた種目の指導などを手伝ってくれています。

また、地域の方としては、卒業生の父親が指導を行っているようなケースもあります。

指導の適任者を探しても見つからない場合ですが、例えば、剣道などでは、板橋区の剣道協会に協力を依頼することもあります。

(門野指導室長)

部活動を掛け持ちされているような先生もいるのでしょうか？

(新谷副校長)

本校にはおりません。

学校によっては、部活動の種類が増減や生徒数の増減、それに伴う教員数の増減などの事情により、複数の先生が1つの部活動の指導に当たるような場合もあります。

【5、教職員の働き方改革を実現のために】

(門野指導室長)

教職員の働き方改革を実現するための提案、意見などをお聞きしたいと思います。

(吉川副校長)

可能であれば、やはり教員の数を増やして欲しいというのが正直なところです。

日頃、おかしいと思うことは、勤務時間についてです。

子どもたちは午前8時10分が登校時間なのですが、先生の始業時間も同じ時間なのです。

例えば、スーパーなどで、お客さんが来店する時間と職員が出勤する時間が同じようなことがあり得るでしょうか。

すなわち、先生が始業時間よりも早く出勤してくるにより成り立っているというのが現状なのです。

先生は、本当に子どもたちを教えたい、子どもたちの「分かった」が何よりも楽しみなものです。

そのためには、より良い授業をするための勉強もしたい、採点などにも力を入れたい、子どもたちの話も、もっと聞いてあげたい。

でも、やはり時間がないというのが現状なのです。

例えば、ダブル担任の配置などがあれば、もっと子どもたちのために、働けるのになと思っています。

(新谷副校長)

上手に時間をつくらうということで、経験のある教員が、若手教員をどれだけ教えてあげられるかということを考えていますが、そのために、何よりも風通しの良い職員室をめざしています。

また、若手教員に何もかも教えてあげてしまうというのも問題で、時間がもう少しあれば、もっと自身に考えさせるような時間もとれると思っています。

教員に、もう少し時間的な余裕が持てるようになると、人間としての幅も出てきて、子どもたちにとって、より楽しく分かりやすい授業ができることと思っています。

(松川主幹教諭)

本校では、データベースの共有化を行っています。

具体的には、過去10年間の行事、教科、学年の資料などをデータとして、みんなが見られるようにしています。

これにより、何かを行う際に、過去の似たものなどを参考にし、加工してできるように工夫しています。

また、本校では、学校支援地域本部が平成24年度から立ち上がっていて、地域の方々と連絡を取り、子どもの活動の準備をともに行っていたいただいております。

地域の方との連絡が非常に円滑になっており、お手伝いいただき、本当に助かっているので、今後も継続的に有効活用していくことが子どものためになると考えています。

(鈴木主幹教諭)

私は、働き方改革の着地点を疑問に思っております。

教員の休みが確保できれば良いのでしょうか。

今の人員で、授業時数、勤務時間のやりくりができれば良いのでしょうか。

それとも、単純に業務量が減れば良いのでしょうか。

着地点として、どこをめざすのかで方策が決まると思います。

今回、驚いたことが、教育委員会がここまで考えてくれているのだということです。

教職員の働き方改革プランの案を見ていて、本当にありがたいと思います。

これがうまく機能していけば、教員は子どもと向き合うような業務に集中できるようになると思います。

私は、教育委員会が行っている様々なことに満足感を感じています。

例えば、ICT機器、電子黒板、デジタル教科書、学習指導講師、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなど、板橋区は恵まれていると感じています。

これらを活用して、我々、教員自身が改革を考えるべきだと思っています。

日本の教育は、情や心が絡む、それで教育が成り立つということを大切にしていきたいと思っています。

【6、教育委員会に望むこと】

(門野指導室長)

この場をお借りして、教育委員会に望むことなどをお聞きしたいと思っています。

(新谷副校長)

他地区で副校長を務めておりましたが、板橋区に来てから、教育委員会の方も丁寧に色々と教えてくれるなと感じています。

しいて言えば、締め切りの早い調査などには配慮をして欲しいなというところでしょうか。

また、可能であれば、教員のデータベースなどの整備をしていただければ助かります。

毎年、同じような資料を提出させられている感がありますので、その辺りを整備してもらえると、出退勤の管理、都職員・区職員の管理など、より省力化、迅速化になるのかなと思います。

(門野指導室長)

教職員の働き方改革ということで、パネルディスカッションを進めてまいりました。

遅い時間までありがとうございました。

◎ 各班の発表内容

【C班】

- 地域からの意見として、子どもの居場所や自由に勉強できる場所が少ないと感じるため、民間の方の協力も欲しいと思う。
- 朝5時30分に出勤しているような先生方も多いという話を聞いている。
- 教職員の負担を減らすためには、校外の活動を減らすことも解決策の1つだと思う。
- 先生方はお仕事がとても大変だという印象がある。
- カリキュラムが多すぎて、矛盾が生じている部分もあるのではないかなと思う。
- 子どもたちにとって土曜授業はとてもありがたいが、先生方には負担が大きいのではないかなと思う。
- クラス数が多いことで、先生の負担が大きい印象がある。
- どの学校でも夜遅くまで灯りが点いているので、先生の数を増やして欲しいと思う。
- 先生方もそうだが、PTAの方々も本当に遅くまで活動されているのをよく見かける。
- 教職員の働き方改革実現のためには、事務職員がどこまで先生方を助けられるかが鍵になると思う。
- 学校支援地域本部も始まっているので、ボランティアなども活用し、PTAでも一生懸命、先生方をフォローしていきたいと思う。

【E班】

- 非常に勉強になる、良い機会となったと思う。
- 「お金」よりも、「人」だとあらためて感じた。
- また、「人」とは、教職員でなくても良いのだと思う。
- 様々な行事を初め、これまでビルドアンドビルドや足し算になってきた状況を見直していかないとけないと思う。
- 現場として、どのように引き算をしていくのか、それを誰が決断していくのか、解決までには時間を要する問題だと思う。
- こうしたことを、地域や第三者に求めていくのは難しく、やはりマネジメントの問題だと思う。
- 可能であれば、効率良くアウトソーシングしていくべきだと思うが、予算の問題もあり、やはりスピーディーに行うのは難しいのではないかなと思う。
- 最終的には校長先生なのか、教育委員会なのか、もしくは板橋区なのか、結局はリーダーシップ次第であるという印象を持っている。

【G班】

- 主に、学校での電話応答機能について話し合ったが、本当に色々な意見が出た。
- 夜6時30分に電話応答機能に切り替わってしまったら、その後は全て、メールやラインなどで対応することになるのかなど、不明な点が多い印象だ。
- 夜6時30分に電話応答機能に切り替わっても、用件を翌朝に回すことになり、結局は意味がないのではないかなという危惧がある。

◎ 教育長の講評

【教育長】

あらためまして、本日はお忙しい中、お越しいただいた皆様に感謝いたします。

PTAの方々、校長先生、副校長先生、主幹教諭のほか、お集まりいただいた皆様に感謝いたします。

私が、板橋区と東京都で5年間、教育委員会、教育行政の場での勤務を終え、ある区の校長職に戻ったのは、平成26年のことです。

平成26年のちょうど今頃でしたが、たった5年間、学校の現場にいなかった間に、学校は恐ろしく忙しくなり、やらなければいけないことが、急激に増えたと感じました。

例えるならば、4トントラックに8トンの荷物を積んで走っている状態で、毎日の走行時間も長ければ、走行距離も長い、いつ事故が起こってもおかしくないといった状態でした。

さらに、荷物の届け先からは、「もっと早く届けろ」、「段ボール箱が傷んでいるぞ」などと厳しい苦情や注文が告げられ、精神的にも追い込まれるような状態でもありました。

当時の学校は、まさに積載量超過、速度超過で長時間運転しているトラックのようであり、先生方はオーバーワークで疲労感いっぱいになりながらも、眠い目を擦り、頭を振りながらハンドルを握っている運転手のように思えたものです。

しかし、そのような状況でも、先生方が目を輝かせる場面、やりがいを感じる場面があることに気付きました。

それは、子どもたちへの学習指導や生活指導のより良い方法を研究する時間、すなわち、学んでいる時間や研究の成果を、実際に子どもたちに発揮している時間でした。

ところで、皆さんは、学校の役割について、子どもに聞かれたら、どのように答えるでしょうか。

私は2つ考えていまして、これはずっと変わらないものです。

1つは、「学力の定着と向上」。

そしてもう1つは、その基となる、「子どもの幸福な状態をつくり上げること」。

この2つは、まさに先生方が目を輝かせながら行う業務であり、使命であります。

その結果として、子どもに質の高い教育を提供できることに繋がりますし、保護者の皆様にも満足いただけることにほかならないと考えています。

もし、これが嫌だという先生がいれば、教職という仕事をお辞めいただくしかないと思います。

だからこそ、先生方にはこの2つのことに携わる時間を、できるだけ多くとってもらおうようにする、そうした環境をつくり出すことが、教育委員会の喫緊の課題であり、使命であり、校長先生はじめ先生方ご自身の知恵の見せ所であり、保護者や地域の皆様のご理解、ご協力をお願いしたいところであると思います。

教育委員会、学校、保護者や地域のトライアングルが共鳴してこそ、この実現が可能になるのではないかと強く思います。

そのためのキーワードとして、「当事者意識」について、お話させていただきます。

学校に係る全ての人が、主語を一人称、すなわち、「私が」や「私は」にしていくことだと思っています。

極端な話ですが、子どもは学校があるから行くのではなく、子ども自身が、自分の安心できる居場所としての学校をつくることであり、保護者である皆さんには、自分の子どもが学ぶ学校を、自分でつくると意識を持っていただき、地域の方々には、地域の宝である子どもが学ぶ学校を、自分の手でつくるという気持ちを持っていただきたいと思います。

もちろん先生方は、学校に通う全ての子どもが差別や排除されることのない、学び合う学校をつくること、当事者意識を持って、関係者が知恵と勇気を持って、ありとあらゆる手段を試みていくことで、先生方が教員の本来の業務、学力の定着と向上と、子どもの幸福な状態をつくり上げること、この2つに専念できるように、努めていただきたいと思います。

私は、3年前に教育長に着任したときに、ある言葉を伝えました。

子どもたちが、学校に行きたい、学校で学ぶのは楽しい、明日も学校に行きたいと感じること。

保護者の皆さまが、板橋区の学校に子どもを通わせて良かったと思っていただけること。

地域の方々が、〇〇学校はおらがまちの誇れる学校だと胸を張っていただけること。

先生方が、板橋区の学校で勤務し続けたい、指導をする力が高まったと実感していただけること。

それぞれが心からそう思えることが、「教育の板橋」の実現に結びつくと、私は信じて疑いません。

教職員の働き方改革の肝は、色々な考え方がありますが、私は、先生方に学力の定着と向上、その基になる、子どもの幸福な状態をつくり上げることに費やす時間を、どれだけ確保できるか、それ以外の業務を、どれだけ削減し、ほかの方で代替できるのかにかかっていると思います。

そのために、教職員の定数の改善、これを国や都に、私は教育長として、強く要望していきたいと思うと同時に、教職員以外にも必要とする人的措置などの条件整備に、これからも務めていきたいと思います。

学校の努力として、学校はそれこそ、ゆったり過ごしていた昭和の時代から当たり前に行われている教育活動を見直して、「やることよりもやらないことを決める」決断力を持って、それぞれの学校の教育課程を見直す、ただし、その際には保護者や地域の皆様にご理解をいただくことが大切であり、このことは、校長先生の大きな役割になっていくことと考えます。

学校のやっていることは全て子どもたちのためになる、だからビルドアンドビルド、足し算になってしまっていました。

ですが、皆さんご存じのように、ここ数年、学校に「〇〇教育」というものがどんどん入ってきており、これを全部やっていたら、教員もそうですが、子どもたちも本当にパンクしてしまうと感じています。

保護者や地域の方々には、当事者意識を持っていただくため、PTA活動の改善、学校支援地域本部の活用、平成32年度から全小中学校でスタートする「板橋区コミュニティ・スクール」を起爆剤にして、子どもを幸せにする学校づくりに、ぜひお力をお貸しいただくとともに、一緒になってつくりあげていきたいと思っています。

本日はご多用のなか、多くの保護者の皆様にお集まりいただき、有意義な討論ができましたことに、重ねて感謝申し上げます。

私はあらためて、本日を「教育の板橋」のリスタートと位置付けて、私自身がリーダーシップをとることを肝に銘じて、教育行政に誠心誠意、努めてまいりますことを皆様にお誓い申し上げたいと思います。

これをもって、皆様へのお礼の言葉に代えさせていただきます。